

男	15,428人
女	16,205人
計	31,633人
世帯数	7,745

(住民基本台帳登録人口)

第26回 福井県社会福祉大会



市民会館で開かれた第26回福井県社会福祉大会でのシンポジウム

“お年寄りの介護を どうするか”

福井県、福井県社会福祉協議会、福井県共同募金会、勝山市勝山市社会福祉協議会など共催の第二十六回福井県社会福祉大会は八月八日午前十時半から、勝山市市民会館大ホールで開かれました。大会には、県内各市町村から社会福祉関係者や民生委員、ボランティア活動家など約八百人が参加。午前中の式典、表彰式に引き続き、午後からは、「地域における老人介護のすずめ方」をテーマにしたシンポジウムが行われ、お年寄りの福祉について真剣に討議されました。大会では、「君が代」斉唱のあと、社会福祉関係者への熱いとうがさげられました。続いて市橋管大会長が「複雑多岐な

800人が真剣に考える

県社会福祉大会開く

現代社会には多くの問題があり福祉の充実がぜひ必要。特に高齢化社会の中で、お年寄りに取り巻く福祉行政を地域社会の協力を得て進めることが大切」とあいさつ。池田市長も「戦後の社会情勢の変化の中で社会福祉も大きく変わってきた。福祉なくては政治はない」と述べました。

そのあと、社会福祉に永年功勞があつた福井市の民生委員、坂井文夫さんら四十三人に知事表彰。勝山市、杉山一栄さんら百二十七人と三団体に大会長表彰。同市、川崎真五郎さんら十七人と二団体に県共同募金会長表彰が贈られました。受賞者を代表して、勝山市、長谷川輝子さんが「身にあまる光栄です。これからもますます社会福祉の充実のために努力したい」と謝辞を述べました。このあと、島田市議会議長らからお祝いのことばがあり午前中の日程を終

えしました。午後は、久常県立短大助教の授会司会者に、老人介護についてのシンポジウムが開かれました。シンポジウムでは市社会福祉協議会の原田事務局長が同協議会の活動経過と実態をふまえて問題を提起。介護者としての主婦代表、高田道子さん、ホームヘルパー代表の柳町はなえさん、勝山保健所保健婦長の佐々木みづをさんらが、それぞれ立場から、寝たきりのお年寄りの介護について活発な意見や体験を話し合いました。主な意見としては▽寝たきりのお年寄りをかかえる家庭ではひと時も目を離すことができません。経済的にも負担が多い。自分が介護する立場になって、はじめは老人福祉を真剣に考えるようになった。▽独り暮らしのお年寄りは孤独である、強く生きるよう元気づけることが大切。▽

核家族化が進む中では独り暮らしのお年寄りも増える傾向にあり、ホームヘルパーの増員が必要。▽保健婦の看護活動の中で、市内の百三十三人の寝たきりのお年寄りの実態を調査したが、百三十三人中女性が七十六人と男性を大きく上回っている。年齢的には七十歳から八十歳代に集中し百人を超えている。寝込む前の対策を講じなければならぬなどが出されました。同大会で表彰を受けた本市関係者は次のとおりです。敬称略

- ▽知事表彰
長谷川輝子(遼羽町北山)
武内 幸枝(元町二丁目)
- ▽大会長表彰
松山 一栄(平泉町平泉寺)
松浦 せつ(立川町二丁目)
山岸千代子(元町三丁目)
松原 茂作(村岡町浄土寺)
笠川 豊子(村岡町滝渡)
荒井 俊雄(栄町一丁目)
織田 信代(本町四丁目)
島田 憲子(荒土町堀名)
- ▽共同募金会長表彰
川崎真五郎(昭和町一丁目)
山内 孝康(鹿谷町本郷)
奥村ひさ美(元町一丁目)
福田 義仁(荒土町伊波)
多田千代子(郡町二丁目)
前田まさ子(沢町二丁目)

池田市長が訪中 県内自治体首長代表団員として



中川知事を団長とする県内自治体首長の訪中計画が進められていきましたが、この程中日友好協会から正式な招待状が届き、県はその日程を発表しました。訪中団の名称は、日中友好福

井県地方自治体首長代表団、中川知事を団長に、大武福井市長を副団長とする代表団は十二人で、八月二十八日午前十時に成田新国際空港を出発しました。一行には本市の池田市長も団員として参加しています。

中国では、北京、瀋陽、旅大、上海、広州などを回り、香港経由で九月十三日夕、大阪空港に帰国する予定です。代表団は中日友好協会の歴承

志会長や中国国際貿易促進委員会、中国国際旅行社社長、國務副総理、各地区革命委員会などを表敬訪問します。また各地の工場、公共施設などの視察を行って、日中両国の相互理解や友好親善を深めます。日本と中国は先ごろ友好条約を締結したばかりで熱烈な歓迎を受けることでしょう。中川知事、大武市長以外の団員は次の方々です。

浦谷音次郎小浜市長、川治吉右衛門水戸寺町長、平沢政三国町長、丸岡齊南条町長、磯見等越穂村長、今村重治県議、堀内

24歳になった勝山市

九月一日は市制施行記念日です。昭和二十九年九月一日一町八カ村が合併、勝山市が誕生、ことしは二十四周年です。この間に私たちの住む勝山市は大きく成長してきました。公共施設の近代化、交通網の整備、中学校の統廃合、上水道、産業構造の改善、衛生施設の近代化公園の築造、都市計画事業の推進、下水道事業の着手、等昔の面影がないくらいに変わってきました。これは市民のみならずの市政に対する専らご理解と協力のおかげです。そして発展へ心魂をかたむけられた指導者の方々の功績があつたからです。この記念日の一つの契機に過去を反省し、さらに私たちの住

勝山の歴史と文化・その4
松山忠左衛門家展
期間 8月1日～54年4月30日
場所 教育福祉会館郷土資料室
主催 勝山市教育委員会・勝山市文化財保護委員会

第三十回県体
**バドミントン
一般女子優勝!**
初出場の自転車も

八月十二日午前十時から開会式が行われ、三日間の熱戦の火ぶたを切りました。ことしの大会は三十回大会で、また福井国体十周年の記念すべき大会となりました。福井市ははじめ六市六町の三十九会場で、一般の部二十九競技、高校の部二十四競技が繰り広げられました。参加選手は八千八百人。

本大会のバドミントン競技は勝山市で開かれ、日ごろの技を競い、一般女子では地元の勝山チームが常勝の福井を破り優勝、福井の十三連勝を阻み、一般男子も健闘よく二位に食い込みました。この競技は、福井団体の際、勝山市で行われたもので技

術も競技熱も高くなっています。一方、福井市足羽川堤防で行われた自転車競技に、初参加した勝山チーム(一般・団体)は強豪を振り切り、一時間三十一分八秒九で初優勝を飾り、ことしから公開競技となった銃剣道競技は鯖江市で開かれ、健闘の結果勝山チームは二位を獲得しました。

そのほか、ソフトボール一般女子が二位、同男子が三位、体操一般男子、バレーボール一般男子が三位、弓道も一般男女共に三位を勝ちとり、郷土勢の力を示しました。本大会の開会式で、体育功労者として深谷外太さん(市弓道連盟会長)が県体育協会から表彰を受けました。

健全な財政運営で 生活環境の整備進む

★一般会計決算について

市の財政事情を毎年一回市民のみなさんにお知らせしていますが、今回は昭和五十二年年度決算を公表します。

昭和五十二年年度の最終予算額は四十六億四千二百四十二万円でしたが、この予算に対する収入済額四十八億三千七百七十四万円で収支差引二億六千三百八十八万円の黒字決算となりました。しかし、年度内で執行できなかった市道新設改良工事および水路新設改良工事の財源三千万

昭和52年度 財政状況の公表

★市税の収入状況

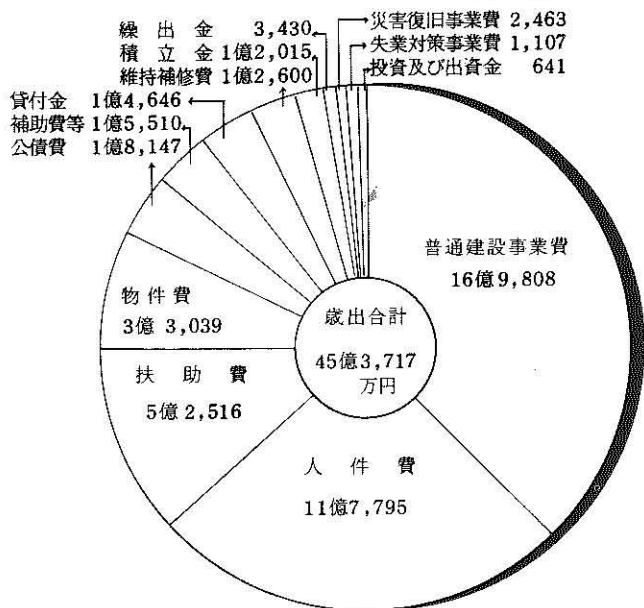
市税収入額は十一億二千九百七十七万円と前年度比二〇・三％の増となり、納税率においては、九六・六％と前年度よりは〇・二％下まりました。今後、納税につきましては市民のみなさんのなご一層のご協力をお願いします。税目別の収入状況は3表のとおりです。

★その他の収入

地方交付税は、十三億三千四百四十四万五千七百七十四円と予算を大きく上回り、自動車関係税の順調な伸びを加えて黒字決算の要因となりました。本年も義務教育施設等、昨年に引き続き充実をはかったことに伴い、国庫補助金の収入確保に努めました。

2表 一般会計性質別決算の状況

(単位:万円)



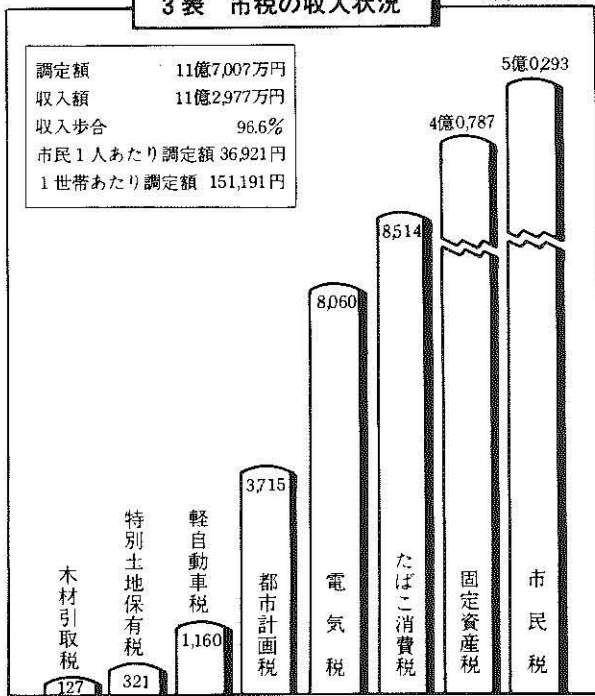
1表 52年度一般会計決算状況

(単位:万円)

歳入	決算額	構成比	歳出	決算額	構成比
市税	112,977	23.5	議会費	7,897	1.7
地方譲与税	4,804	1.0	総務費	59,377	13.1
自動車取得税	4,993	1.0	民生費	85,408	18.8
地方交付税	130,034	27.1	衛生費	15,751	3.5
交通安全対策特別交付金	495	0.1	労働費	1,597	0.4
分担金及び負担金	5,874	1.2	農林水産業費	56,090	12.4
使用料及び手数料	8,966	1.9	商工費	14,693	3.2
国庫支出金	80,366	16.8	土木費	91,266	20.1
県支出金	52,137	10.9	消防費	12,483	2.8
財産収入	3,309	0.7	教育費	86,415	19.0
寄附金	580	0.1	災害復旧費	2,463	0.5
繰入金	2,505	0.5	公債費	18,192	4.0
繰越金	15,444	3.2	諸支出金	2,085	0.5
諸収入	19,491	4.1			
地方債	38,060	7.9			
計	480,035	100.0	計	453,717	100.0

3表 市税の収入状況

(単位:万円)



★経費の効率化と節減

本年は、住民福祉の充実を向上、住みよい生活環境の整備、産業の振興をモットーに行政の効率化と健全財政の堅持をはかるべく、人件費については職員の増員は行わず、欠員補充のみにとどめ、少数精鋭主義により、事務効率の向上に努め、需用費、旅費等の物件費も冗費の節減をはかりました。

老人医療等の老人福祉、保育所、児童手当、常設児童遊園等の児童福祉、生活保護等の社会福祉の充実を努め、前年度に比較して、九％増加しました。また今後の多岐にわたる住民ニーズに対処するため、財政調整基金を更に一億二千余万円積み立て

4表 特別会計の状況

(単位:万円)

区分	収入済額	支出済額	差引残額
市有林造成事業	2,405	2,157	248
育英資金	6,054	5,444	610
簡易水道事業	7,866	7,930	△64
国民健康保険	63,155	59,681	3,474
同鹿谷直管	1,354	1,307	47
地区画整理	10,024	11,046	△1,022
農業共済事業	5,381	3,264	2,117
下水道事業	16,707	16,707	-

★建設事業の充実

五十二年度末の現在高は六億七千八百九十九万円となりました。国の景気浮揚対策に合わせ、公共事業の拡大に努めるため、積極的に国の補助事業を受け入れる方針のもとに、市道改良、都市計画街路、公園事業、林道開発、小学校改築、保育所改築等、公共事業の充実をはかった結果、十七億三千三百七十八万

特別会計公債の状況 (単位:万円)

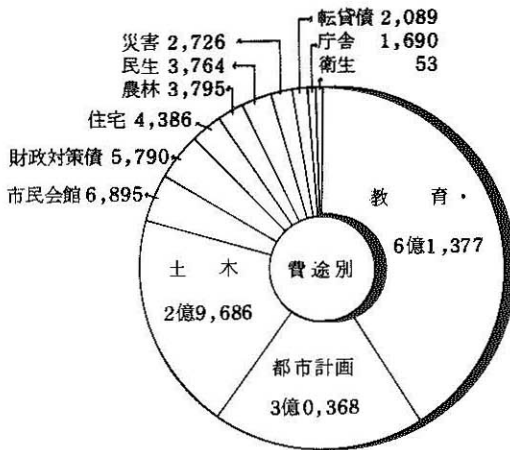
区分	現債額	借入先
市有林造成事業	11,600	農林漁業金融公庫
簡易水道事業	10,525	資金運用部 簡易保険局
下水道事業	7,980	資金運用部 資公営企業金融公庫

道路橋りょう整備 四億二千四百六十七万円
 (市道改良舗装、橋りょう改良、凍結防止流雪溝、国、県道改良事業負担金等)
 都市計画事業 二億五千五百五十二万円
 (立石線街路築造、中央公園築造、土地区画整理事業負担金、県営街路事業負担金等)
 河川水路改良事業 六千四百九十九万円
 交通安全施設 五百四十五万円
 農林業振興 四億七千二百一十一万円
 (第二次構造改善事業、地域農政整備事業、土地改良、は

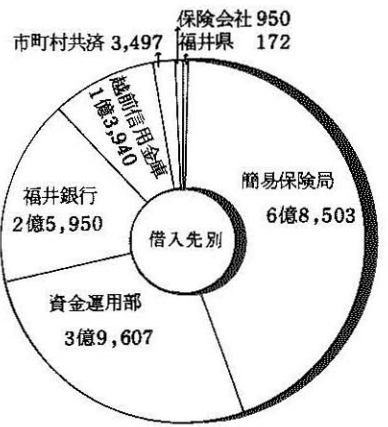
6表 市有財産の状況



5表 公債の状況



市債総額15億2,619万円 (52年度末)



昭和52年度 勝山・上志比衛生管理 組合財政状況の公表

●昭和52年度歳入歳出決算状況(単位:千円)

歳入	決算額	構成比	歳出	決算額	構成比
分げ			議会費	149	0.1
税金	48,730	14.1	総務費	27,377	7.9
国庫支出金	62,300	18.1	衛生費	301,143	87.4
県支出金	15,575	4.5	公債費	16,015	4.6
繰越金	207	0.1			
諸収入	488	0.1			
組合債	217,200	63.0			
財産収入	47	-			
使用料	254	0.1			
計	344,801	100.0	計	344,684	100.0

●財産及び公債

昭和52年度末の現債額及び借入先(単位:千円)

区分	現債額	借入先	組合財産
浄化処理施設整備事業	315,200	資金運用部	建物 1,425.12m ²
	39,400	福井銀行	土地 709.57m ²
			有価証券 60千円

勝山市と上志比村のし尿を共同処理するため、昭和五十一年度、五十二年度の二か年で、し尿処理施設を建設してまいりましたが、昭和五十二年十一月に完成し、昭和五十三年一月から施設の稼働を開始しました。また、

- 場整備事業補助金、農道舗装幹線林道改良、小原、法恩寺線広域基幹林道負担金等)
- 消防施設 八百十九万円
- (防火水そう新設、ジープ購入、小型動力ポンプ購入)
- 小・中学校整備 二億六千九百三万円
- (村岡小学校校舎および給食室改築工事、北谷小学校校舎および屋内体育館改築工事、南部中学校敷地造成、中部中学校グラウンド整地工事等)
- 教育福祉施設 二億二千六百十六万円
- (北郷幼稚園新築工事、猪野瀬公民館改築工事、市宮弓道場新築工事、中央保育所改築工事等)
- 失業対策費 千七百円
- 災害復旧費 二千四百六十三万円
- その他 千二百八十六万円
- (労働福祉会館建設補助金、勝山病院人工透析補助金、市営住宅修繕工事等)

以上が昭和五十二年の市の財政のあらましです。今後も健全財政を堅持して、市民のみなさんのご期待にそなうよう努力し「明るく豊かで住みよい生活環境のもとに、文化的生活が営める都市づくり」を積極的に推進する方針です。

昭和五十二年の市債現在高は、一般会計十五億二千六百十九万円、特別会計三億五千万円となっています。

一般会計についての目的別、借入先別の内訳は5表のとおりです。市の財産状況は6表を参照してください。

国民健康保険等の特別会計の収支決算の状況は4表のとおりです。

国民健康保険等の特別会計の収支決算の状況は4表のとおりです。

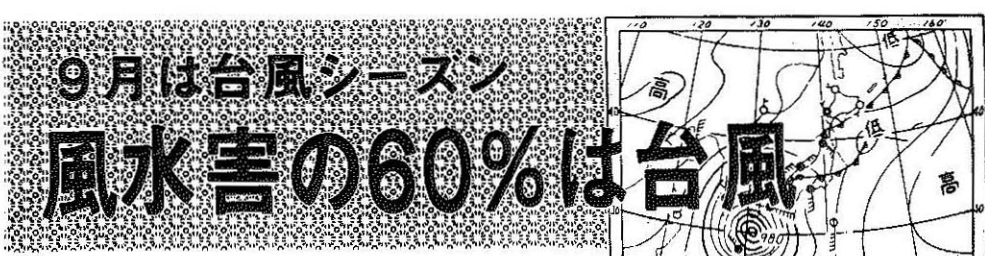
昭和52年度 水道事業の公表

本年度は、水道事業第四次拡張に直面する水源の確保に努めました。予定地域では容易に予定取水量が得られず、前年度冬期間のような全域の断水を生じたのでこれをさけるため、若猪野地区に深井戸一井をさく井し、取水能力の増加をはかり、一方公共下水道事業と併せて、国道一五七号線から西環状線までの都市計画街路立石線に本管を敷設しました。

改良事業としては、滝波土地区画整理事業地区に八百七・五坪、畔川地係七百七十七坪、郡町二丁目、芳野町二丁目、本町一丁目地係の未敷設地および給水管網の拡充を行い、既設の給水管不良地四カ所に補助管四百三十七坪を敷設、給水の円滑化に努めました。

給水状況は、一日最大配水量一万四千二百六立方メートルを示し、年間総配水量は二百五十五万五千二百五立方メートルで、前年度より約二・九一%減少しましたが、有取率の向上に努め、有取水量は八千五百九十三立方メートルを増やしました。若猪野地区にさく井したため、本年度の冬期間は大体良好な給水を保つことができました。

区分	昭和52年度		昭和51年度		比較	
	円	円	円	円	%	増減
収益的収入及び支出						
水道事業収益	93,404	92,213	101.29	1,191		
うち給水収益	85,829	84,159	101.98	1,670		
水道事業費用	96,286	84,451	114.01	11,835		
うち支払利息	13,967	12,135	115.09	1,832		
資本的収入及び支出						
資本的収入	30,337	55,576	54.58	△ 25,239		
うち						
出資金	3,780	3,600	105.00	180		
企業費	21,400	45,000	47.55	△ 23,600		
資本的支出	53,562	75,437	71.00	△ 21,875		
うち						
建設改良費	47,814	69,563	68.73	△ 21,749		
企業償還金	5,748	5,874	97.85	△ 126		
貸借対照表						
資産合計	389,409	362,864	107.31	26,545		
うち						
固定資産	357,480	326,249	109.57	31,231		
流動資産	31,929	36,615	87.20	△ 4,686		
負債資本合計	389,409	362,864	107.31	26,545		
うち						
固定負債	-	-				
流動負債	6,641	1,803	368.33	4,838		
資本金	341,650	315,464	108.30	26,186		
剰余金	41,118	45,597	90.17	△ 4,479		
給水戸数	4,709	4,584	102.73	125		
総給水量	2,505	2,580	97.09	△ 75		



台風は、熱帯地方の海上で発生し、次第に勢力を増し、大きな渦巻となって北上、日本を襲います。九月から十月にかけて最も多く上陸しています。

台風は、風だけでなく、雨雲をさそい豪雨をもたらすことが多く、したがって、その被害も強風による家屋の倒壊、集中豪雨による水害、山くずれなどが発生します。また、強風下で火災が起るとたちまち大火災となり、私たちに悲しい事態に追い込むこととなります。



からの台風シーズンに備えて、十分注意しましょう。心がけなければならぬ事項をまとめてみました。

テレビ、ラジオで出される台風情報をよく聞いて、台風の進路、勢力などについて、知っておくことが大切です。そして家庭での対策をたてましょう。

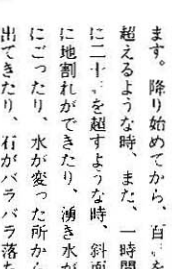


寄りの強い風が急にやみ、しばらくすると逆の風向きとなり吹き返えします。したがって台風が通過したあとは、どちら側を通過しても西風となってやむもの。台風は中心が日本海を通過する時は、フェーン現象をおこし火災が発生しやすく、火災が発生すると大火になる恐れがありますから、火の元には十分注意が必要です。



かわらぶきの場合は、風向きにあたる軒先、南東の側の妻がわら、棟がわら、裏側の棟に近いかわらはよくくくられますから、前もってよく調べて、しばったり、風のはいりそうなところはシッキイをつめるなど補修しておく必要があります。

トタン屋根のときは、その止め方を十分調べて、止めクギの少ないものは亜鉛クギを増やしてしっかり止めておくことが大切です。



窓、出入口は十分注意が必要。シャッター戸は相当効果があります。すべての戸が一つになってはじめて効果があるのです。

一枚はすされたら吹き抜けるように反対側を開けないと、屋根などを吹き飛ばされて思わぬ被害を受けることがあります。



このような状態の時は、警報をよく聞いて、各人が避難するようにしてください。特に、次のような所に住んでいる方は十分注意が必要です。

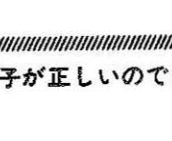
- ▼がけの傾斜にてこぼれやすい所
- ▼湧き水があるがけ、また、豪雨の水が大量に集ってくるような所
- ▼崖や壁や地盤に割れ目のあがけ
- ▼人工の手が加えられたがけ
- ▼表土の厚いがけ
- ▼岩が土のようにほろほろになつていがけ
- ▼堅い岩でも割れ目の多いがけ

台風は大雨をもたらすし、河川の水が増水します。川の近くへはなるべく近づかないようにしましょう。

隣近所がお互いに協力しあえるよう体制を整え、避難場所を選んでおくことが大切です。食糧も、二、三食分は常に確保しておきましょう。



台風が、勝山市の東側を通過する時は、大雨の心配があります。特に長雨や強い雨の場合はがけ崩れや山崩れの危険があります。降り始めてから、百、を越えるような時、また、一時間に二十、を越すような時、斜面に地割れが起きたり、湧き水が出てきたり、石がバラバラ落ち始めてきた時は危険です。



九月十五日の「敬老の日」から二十一日までの一週間を「老人福祉週間」として、全国的にお年寄りの福祉増進運動が繰り広げられます。

明治時代の日本人の平均寿命は、男性四十二・八歳、女性四十四・三歳でした。それから百年、男性は七十二・六九歳、女性七十七・九五歳と、世界の長寿国のトップクラスへ躍り出ました。もはや「人生七十年」はあたり前のことになりました。

つまり、日本は高齢化社会への第一歩を踏み出したのです。しかも、そのスピードが速く、昭和五十年は、十五歳から六十歳までの働き手八・五人に對し、お年寄り（六十五歳以上）一人の比率でしたが、三十年後の八十年には、働き手四・一人に對し、お年寄り一人となり、問題は、単なるお年寄り人口の増加だけではありません。核家族の増加、扶養意識の変化などから、高齢者世帯の増加が目立っております。現在、ひとり暮らしのお年寄りは、全国で約六十六万人にのぼると推定されています。

「ガスコンロに火をつけたまま外出する家庭が三割近くもある」とことが、市少年消防クラブの、わが家の防火点検調査、でわかりました。

同クラブでは、夏休みに入る前に市内の小、中学生二千八百六十四名を対象に各自の家庭の防火診断を依頼しましたが、この結果がまとまりました。

項目別では、▼ガスコンロを使ったまま家族が外出することがある二・八％、▼蚊取り線香の火を消さずに寝る前に必ず火の元を調べている八・七％、▼子ども同士で花火をする時、大人がついていない一・八％、▼ふろをわかす時に水を流すこと、

つげ放し外出 3割

少年消防ガスコンロなど調査

その半面、▼夜寝る前に必ず火の元を調べている八・七％、▼子ども同士で花火をする時、大人がついていない一・八％、▼ふろをわかす時に水を流すこと、

台風が北に向って進んだ場合風向きが、左巻きのため、その東側では南寄りの風が吹くことになり、一方台風を押し流す方向は、南風となつていきます。東側では渦巻の風と渦巻を流している方向とが、いっしょになつていきますから、風が更に強くなっていきます。

西側では、渦巻を流している方向と吹き込む方向とが逆になるため、お互いに力を消し合い弱くなつていきます。このため、西側を通る方が東側を通るより一段と風が強く危険になります。台風は中心に入った時は、東

窓、出入口は十分注意が必要。シャッター戸は相当効果があります。すべての戸が一つになってはじめて効果があるのです。

一枚はすされたら吹き抜けるように反対側を開けないと、屋根などを吹き飛ばされて思わぬ被害を受けることがあります。

風の強い時の外出は、十分注意しなければなりません。思わぬところから、かわらや看板、トタン板、折れた木の枝などが飛んできて、けがをすることがあります。ヘルメットなどを頭を保護するものをつけて歩くことが大切です。

このような状態の時は、警報をよく聞いて、各人が避難するようにしてください。特に、次のような所に住んでいる方は十分注意が必要です。

- ▼がけの傾斜にてこぼれやすい所
- ▼湧き水があるがけ、また、豪雨の水が大量に集ってくるような所
- ▼崖や壁や地盤に割れ目のあがけ
- ▼人工の手が加えられたがけ
- ▼表土の厚いがけ
- ▼岩が土のようにほろほろになつていがけ
- ▼堅い岩でも割れ目の多いがけ

台風は大雨をもたらすし、河川の水が増水します。川の近くへはなるべく近づかないようにしましょう。

隣近所がお互いに協力しあえるよう体制を整え、避難場所を選んでおくことが大切です。食糧も、二、三食分は常に確保しておきましょう。

お年寄りに生きがいのある社会を

九月十五日の「敬老の日」から二十一日までの一週間を「老人福祉週間」として、全国的にお年寄りの福祉増進運動が繰り広げられます。

明治時代の日本人の平均寿命は、男性四十二・八歳、女性四十四・三歳でした。それから百年、男性は七十二・六九歳、女性七十七・九五歳と、世界の長寿国のトップクラスへ躍り出ました。もはや「人生七十年」はあたり前のことになりました。

つまり、日本は高齢化社会への第一歩を踏み出したのです。しかも、そのスピードが速く、昭和五十年は、十五歳から六十歳までの働き手八・五人に對し、お年寄り（六十五歳以上）一人の比率でしたが、三十年後の八十年には、働き手四・一人に對し、お年寄り一人となり、問題は、単なるお年寄り人口の増加だけではありません。核家族の増加、扶養意識の変化などから、高齢者世帯の増加が目立っております。現在、ひとり暮らしのお年寄りは、全国で約六十六万人にのぼると推定されています。

お年寄りに生きがいのある社会を

年金制度、老人医療の無料化、福祉サービスなど、社会保障の充実を図るといふ面にも目をむける時を迎えています。

「老人福祉週間」の趣旨は、すべての国民が多年にわたって社会に貢献してこられたお年寄りを敬愛し、長寿を祝うとともに、お年寄り自らも常に心身の健康に注意していただき、今日までつちかかってこられた知識と経験をより一層社会に役立てていただくというお年寄りの福祉についての関心と理解を深め、生きがいのある社会をみんんで築こうとするものです。

お年寄りに生きがいを持ってもらうために、いろいろな福祉施策が講じられてはいますが、なんといっても地域社会の住民がお年寄りの福祉に関心をもち、それを行動に移すまでではないでしょうか。この週間を迎えるにあたって、みんなで考えてみましょう。

訂正とおわび 前号で人権擁護委員の坪川さんの名前が和子となつていましたが利子が正しいのでおわびします。



競技の前に正しい自転車の乗り方を勉強する児童ら……旭町ミニ交通公園で

正しい乗り方を勉強

小学生の自転車競技会

交通安全運動の一環として、勝山市、勝山市教育委員会、勝山警察署、勝山交通安全協会が主催の交通安全小学校自転車競技会は八月一日、旭町のミニ交通公園で開催された。競技会には市内の八小学校から二十八人が参加、愛車に乗って、ルールを守った正しい乗り方に真剣に取り組みました。

この競技会は、小学生児童に對して、自転車の正しい乗り方の講習と競技会を通して、交通ルールを身につけ、習慣化させ交通安全防止を図ることがねらいて今回初めて開かれたものです。開会式のと、勝山署の北川巡査部長から講習内容の説明を聞き、続いて寺前巡査部長の指導で競技コースを使って、自転車の正しい乗り方を勉強しました。児童らは胸にそれぞれゼッケンをつけ、コースを何回も練習をしました。

どの児童も元気よく、停車、行よし、左よし、後よし、発車とかげ声を出し、右折、左折などの手信号もてきぱきと出来るようになりました。

同公園に設けられた九つのポイントのある約二百メートルのコースに挑戦。自転車安全推進員ら五人の審査を受け、得点を競いました。

競技の結果は一チーム三人（うち女子一人）の総合得点で野向チーム（宇佐美則行、山内良治、西出清美）が最高点をとり優勝を飾りました。審査に当たった人たちは「みんな正しい乗り方を励行しているの、ほとんど点差はなかった日常の生活の中でも今日のような立派な乗り方をしてほしい」と話し、児童らの自転車乗り方に感心していました。準備勝には次の二チームが輝きました。

▽三連チーム（服部栄一、斉藤日出夫、藤崎邦子）▽荒土チーム（笠羽徳将、飯岡健一、立壁直子）入賞チームには賞状、トロフィー、賞品が贈られ、参加者全員に参加賞が贈られました。

害虫から弁天桜を守る 市職員が薬剤散布

丸坊主にしてしまふほど猛威を振るうといふ害虫が、名所の桜も枯れてしまう恐れがあるため、駆除することになりました。

この日は午前九時から市商工観光課員四人が出勤。速効性殺虫剤「ランネード」の溶解液をドラム缶に入れ、小型トラックに積み、約四キロの先にノズルを付けて、桜の木一本一本、ていねいに薬剤を散布しました。ことしはまだ例年ほどの被害は出ていませんが、葉の裏に付いた毛虫は盛んに葉を食い荒らしています。

わたしが誇る桜の名所、丸頭、丸坊主にしてしまふほど猛威を振るうといふ害虫が、名所の桜も枯れてしまう恐れがあるため、駆除することになりました。

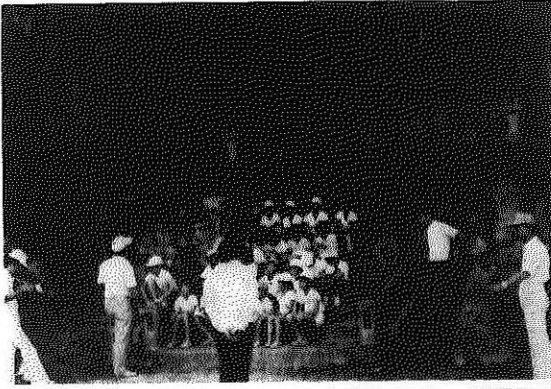
この日は午前九時から市商工観光課員四人が出勤。速効性殺虫剤「ランネード」の溶解液をドラム缶に入れ、小型トラックに積み、約四キロの先にノズルを付けて、桜の木一本一本、ていねいに薬剤を散布しました。ことしはまだ例年ほどの被害は出ていませんが、葉の裏に付いた毛虫は盛んに葉を食い荒らしています。

わが町を知ろうーと史跡めぐり 勝山JCC 五百人の児童招待

「わが町を知ろう」と勝山青年会議所（古川一治理事長）は創立十周年記念事業として、七月三十一日、市内小学校の児童（五年生）の史跡めぐりと子ども広場を開きました。

市内十校の児童約五百人がこれに参加、午前中はマイクロボスなど十二台に分乗し、A、B、Cの三コースに分かれた児童らも広場を開きました。

岩屋観音など十五カ所を見学した。訪れた先々で、同会議所会員の説明に熱心に耳を傾け、メモをとったり、フィルムに収めるなどしていました。同会議所では、この事業を前に市内の史跡や文化財、天然記念物を紹介した小冊子「かつやまめぐり」を配布しており、児童らは早速参考資料として役立てていました。



上——史跡めぐりで説明を聞く児童ら……堀名銀山跡で
下——丸頭竜川の魚釣りコーナーで楽しむ児童ら……勝山橋付近



第二十四回勝山夏まつりは、旧盆を中心に三日間にわたりにぎやかに繰り広げられました。

ことしから主会場が中央公園に移され、大噴水を開いて紅白の塔が六基たてられ、ちよちんが四方につられてお祭り広場は最高のムード。各町内から、北年会、婦人会、子ども会が、ふるさとの踊り大会に参加、夜遅くまで、踊りの輪がたちました。

特に、お盆で里帰りの人たちが、お盆で里帰りの人たちが

二万三千人が
夏まつりを
楽しむ

買いものは
市内で

安全茶屋で事故防止呼びかけ

ドライバーに飲み物をサービス

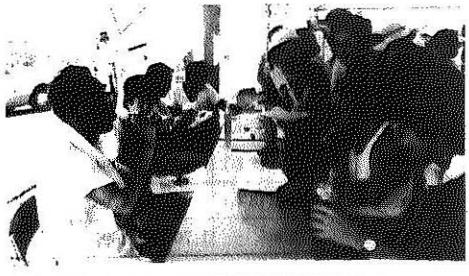
夏の交通安全運動が始まって四日目の七月三十一日、北郷町上森川バス停前で交通安全茶屋が開かれ、ドライバーに安全運転を呼びかけました。

茶屋を開いたのは、勝山市、勝山警察署、勝山交通安全協会、福井県民運動推進協議会、勝山市交通安全母の会です。

同バス停前には、冷茶やジュースを警官に誘導され停車したドライバーにサービス。母の会からは交通安全のチラシやマスコットなどを配り、交通事故防止を呼びかけました。

茶屋で一息入れたドライバーらは、事故を起さないよう安全運転をしますと話していました。

（写真は交通安全茶屋）



市職員採用試験

受付は9月28日から10月7日まで

昭和五十三年度市職員採用候補者初級試験を次のとおり行います。

▼試験区分と採用予定人員

- 事務 男子 一人
保健婦 女子 一人
土木 男子 若干名
化学 男子 一人
電気 男子 一人
機械 男子 一人

▼受験資格

昭和二十九年四月二日から昭和三十六年四月一日までに生まれた人が受験できます。

保持簿の場合は、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を

保持簿の場合、その資格を



住宅統計調査にご協力を

勝山市では千戸が対象

五年に一回実施されます「住宅統計調査」が十月一日、全国にわたって行われます。

下水道工事のお知らせ

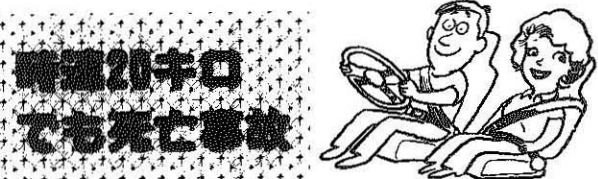
市では、清潔で明るい町づくりを目指し、昨年度から下水道工事によりかましました。

不用品交換

レコードプレーヤー、ダブルベット、養鶏用カゴ(80羽分)など、不要になった品物を交換しましょう。

Table with 5 columns: 調査品目, 平均, 市平均, 県平均, 対前年同月対比. Lists various household goods and their prices.

シートベルトをつけていないと...



衝突事故を起こしても、ハンドルをしっかりと握って、腕や脚で体を支えていけば大丈夫... 命を落とすことも少ないのです。

帯魚水槽、ステレオアンテナ、ベビーベッド(三件)、卓球台、小型鏡台、冷蔵庫、バイク(50cc)二件... 登記・人権の無料相談